

後藤 柳允（ごとう・りゅういん）

1、プロフィール

川柳作家。東北川柳界の先駆者、蝶五郎の長男として幼少から川柳に親しむ。川上三太郎に師事し作句。同時に青森県川柳社の機関誌「ねぶた」の編集を 31 年間続けた。

<生没>

1929(昭和4)年5月30日 ~ 1982(昭和57)年5月8日

<代表作>

後藤柳允遺句集『餘香』

<青森との関わり>

黒石市生まれ、黒石市青少年補導センター嘱託職員として勤務。

2、作家解説

昭和4年5月30日、黒石市に東北川柳界の先駆者であり指導者であった蝶五郎の長男として誕生。本名柳悦。昭和22年東奥義塾高等学校を卒業。卒業後、家業(木炭販売)に従事。幼少の頃より川柳に親しみ昭和21年(17歳)より本格的に川柳作句、全国誌である「川柳研究」に投句、川上三太郎に師事。

昭和26年、青森県川柳社機関誌「ねぶた」の編集人を務め、死去する直前まで続けた。昭和38年家業を食料雑貨店に転業。昭和43年黒石市青少年補導センター勤務。昭和57年3月末同センター退職。昭和57年5月8日糖尿病に急性肝炎、尿毒症を併発し死去。享年52歳。

「ねぶた」編集者として幾度もの苦難に耐えて誌の発行を継続。県川柳界の大黒柱としての存在を守った。また、常に前向きに川柳に取組み、若手作家の育成に努めた。

昭和38年不浪人賞受賞。昭和52年県芸術文化報奨受賞。

昭和 63 年5月「柳允句碑建立実行委員会」が、県内外の川柳人の浄財を集めて、黒石市中野神社境内に句碑を建立。

「少しずつ義理ある人を要にいう」 柳充

また、平成3年 12 月遺族によって浅瀬石の墓地に句碑が建立された。

「したたかに酔う愚かさも見せておく」 柳充

この墓地には、父蝶五郎の句碑「目を閉じて灰色もよき色のうち」もあり、全国でもまれな親子句碑となっている。

3、資料紹介

○後藤柳允遺句集『餘香』

図書

1984(昭和 59)年5月8日

188mm×135mm

作者の全川柳作品の中から雑詠 3000 余句を選び、さらにその中から5名の選者により残された 577 句を収録。他に作者の写真、略歴、新聞等に載った記事、県内柳人の追悼文、追悼句も収録されており、作者の生涯をまとめた句集である。